



## 会報 2017年3月号

日本ニュージーランド協会 (関西)

創立 1970 年

New Zealand Society of Japan, Kansai

最近までスキー場便りが新聞紙上に掲載されていましたが、今は梅花、間もなく桜花が話題になりますが、皆様ますますご健勝のことと存じます。

ニュージーランド (NZ) は夏から秋へ季節が移行し美しい黄葉が見られるようになります。若い人の中では、中国経由 (上海・広州・香港) で NZ へ行かれる方も増えているようですが、関西からの直行便が運休になり不便になりましたが、ニーズが多くなれば再開もあるそうです。しばらく NZ にご無沙汰されておられる皆様もご家族・友人をお誘いのうえ旅行に行かれることをお勧めいたします。

### 第 265 回例会 (会員総会)

と き : 4月15日 (土) 11時00分~14時30分

11時~12時 会員総会

12時~14時30分 昼食・懇談会

話題「私たちとニュージーランド」 宮本忠・由紀子夫妻

(三重日豪・ニュージーランド協会)

ところ : 中央電気倶楽部 北区堂島浜 2-1-25

TEL : 06-6345-6877

参加費 : 1) 会員総会 不要 2) 昼食懇談会 4000円

(詳細別記)

### 第 266 回例会 (ラム&ビーフ 調理と試食の集い)

と き : 5月13日 (土) 10時00分~13時45分

ところ : こうべ市民福祉交流センター 調理室

中央区磯上通り 3-1-32 TEL : 078-271-5314

三宮から南東へ徒歩 20分 (昨年と同会場)

参加費 : 2000円

(詳細別記)

事務局 : 大阪市西区江戸堀 1-23-26 西八千代ビル 3階C

N.S.コンサルタント内 電話・FAX : (06) 6607-2112

HP : <http://nzsocietykansai.com>

E-mail : [nzsjk@yahoo.co.jp](mailto:nzsjk@yahoo.co.jp)

## 第265回例会のご案内(会員総会)

- 議 件
1. 2016年度事業報告
  2. 2016年度決算報告
  3. 2017年度事業計画
  4. 2017年度収支予算
  5. その他

懇談会ゲスト:

宮本忠氏 三重オーストラリア・ニュージーランド協会 会長  
三重大学名誉会長、東北公益文科大学大学院 特任教授  
元リンカーン大学 (川瀬初代会長母校) 客員教授  
専門分野 環境・行政学

宮本由紀子氏 東北公益文科大学ニュージーランド研究所 学外研究員

参加費: 4000円 会員総会は不要  
(4月11日以降はキャンセル料必要です)

出欠返事: 4月10日締切り  
(同封ハガキをご利用ください)

## 第266回例会のご案内 (ラム&ビーフ 調理と試食の集い)

と き: 5月13日 (土)  
10時00分~13時45分  
ところ: こうべ市民福祉交流センター 調理室  
中央区磯上通り3-1-32  
(昨年と同会場)

TEL: 078-271-5314  
三宮から南東へ徒歩20分  
美味しく健康によいNZ産のラムとビーフを食材に和気あいあいの雰囲気の中で楽しい時間を過ごしましょう。

定員: 30名 最終締切り: 5月8日(月)  
(同封ハガキ使用時は4月10日までに返送下さい)

協賛: アンズコフーズ

参加費: 2000円

飲み物・エプロンなどご持参ください。

申込み: TEL・FAX: 06-6607-2112

メール: nzsjk@yahoo.co.jp

当日の連絡先: 070-5260-8785

\*ラム&ビーフの特徴を知りたい方は、ビーフ&ラム・ニュージーランドのHPをご覧ください。  
楽しい動画もご覧ください。

<http://newzealand-beef.jp/beef>

## ■第262回例会(柿狩り)に参加して

2016年11月12日土曜日 家内と一緒に参加しました。参加者は24名、私たちは電車で出かけたのですが、近鉄福神駅前に10時30分に集合し、ここから車に乗せてもらい、太津さんの柿農園に向かいました。細い山道を上り詰めると、たわわに色着いた柿農園が広がっており、山の頂上なので360度、周りの緑の山々が見渡せます。天気は快晴、11月なのに暑いくらいで、着いたとたんには心が癒されます。

最初に太津さんのお話を聞きました。イメージと違って一部に白い袋がかけられた柿があって、気になっていたのですが、説明によると、これは特に高級な柿として出荷されるもので、この袋が温度の調整をしてくれて、糖度が増すそうです。その他色々教えていただきました。

・私が今まで富有柿だと思っていたもの(少し扁平で角張ったもの)は合わせ柿(しぶ柿のしぶを無くしたもの)で炭酸ガスを充満させて4日程度で市販の甘さになるそうです。本当の富有柿と食べ比べもさせていただきました。富有柿はより糖度が高く、口当たりは少しやわらかい気がしました。

・水分が少ないほど糖度が増すので山の斜面で栽培しているそうです。

みかんが斜面地で栽培されているのも同じ理由かもしれません

お話の後分かれて柿狩りをさせていただいたのですが、木になったまま完全に熟れきったものを、すする様に食べたのも初めての経験でした。ほとんど手のひらに余るぐらいの大きさの柿を目の前にし、せっかく自分の手で取れるのだからと思い、うれしくて、大きく良く熟れたものを選んでたくさん取ったのですが、後で、枝から切り離された柿は早く柔らかくなると聞きあわてました。しかし心配には及ばず、大変おいしかったので、息子夫婦に分けたりし、大量の柿もすぐに食べてしまいました。

太津さんはニュージーランド協会だけでなく、ニュージーランド学会にもはいつておられ話も国の内外の話に広がります。

私もこれからの農業も、TPP が如何様になろうとも、高品質・高付加価値のものを広く海外にアピールしていかなければならないと思います。残念ながら最大の受入国になるであろう中国は、まだリンゴとナシだけしか認めていないようですが、政府に対しても、より強い交渉を期待します。見晴らしの良い部屋で昼食をいただき、私は都合で皆様とお別れしたのですが、他の方々は、『JAならけん西吉野柿選果場』の見学に向かわれました。この選果場では、最新式の CCD カメラによる新選別装置により、果実の色、傷、容積、形状を電子工学的に計算し、等級、階級を瞬時に判定できるそうです。私も機会があれば、是非見学に行きたいものだと思っております。



(柿選果場)

私と家内は、まだニュージーランドに行ったことがなく、今年の秋頃に訪れてみたいと思っております。皆様のアドバイスがいただければ幸いです。  
(山下誠二)



(太津農園にて)

参加者：太津隆司・山田輝子・塙幸子・井上佳久・林園子・林弘子・中村重夫・浜中謙治・山下誠二・山下淑子・三浦治郎・鈴木博昭・鈴木七海・貴志康弘・北野和夫・林進・高見和彦・中島健祐・日高隆義・古賀一美夫妻・喜田靖夫・大久保房子・石井久行 (敬称略・順不同)

~~~~~

## ■第263回例会(クリスマス例会)

会場(神戸外国倶楽部)の都合で11月23日に開催しました。ゲストにはスコットランドご出身の Ramsay 家が中心の「Ramsay Pipe Band」をお招きしました。ラムゼイさんは大阪を拠点に国内外のイベントに出演される有名な音楽一家で日本とスコットランドの交流にも貢献されています。会場に突然、バグパイプの大きな音色が広がりました。



(バグパイプ演奏)

演奏の合間にはリンゼイさんからタータンチェック・バグパイプの解説もユーモアたっぷりにしていただきました。また、ハイランド・ダンスも少し踊っていただきました。

NZにはダニーデン等スコットランド出身者が開拓した町もあります。ラムゼイ夫人は東南アジアやNZで教員をされたこともあるそうです。テーブルには美しくアレンジされたお花も飾られ少し早いクリスマスがやってきました。バザー・NZワインと美味しい食事・ビンゴゲーム・プレゼント交換等のあと最後にポカレカレアナと蛍の光(スコットランド民謡)の合唱で例会は和気あいの雰囲気の中で終了しました。

参加者：松元美智子・吉田恵・宮崎協子・牧野裕子・野田貞子・西原博子・山野敏子・迫キミコ・柳田勘次・石井久行・三浦治郎・藤村琇子・宗佐保・曾我部知子・モードラムゼイ・正木紀通・中谷紀子・中村重夫・西川賢一・貴志康弘・堀江敏樹・堀江悦子・難波やす子・森川和代・平戸ヨウ子・津村政美・木嶋征久子・興津芳子・林園子・林弘子・古賀一美・井上佳久・伊藤美登利・北野和夫・外山純・山下誠二・牧初代・アンセルヘスス・林進・林曇那・塙幸子・山田輝子 (敬称略・順不同)



(神戸外国倶楽部にて)

## ■第264回例会 毎日新聞社見学会

1月27日の午後、毎日新聞社大阪本社の見学会をしました。小学校の社会見学以来何十年振りの方、初めての方等9名が参加しました。

新聞のできるまでの流れの説明を受けた後、整理

部の部屋の様子を階上の窓越しに覗きましたが、煙草の煙もなく以外に整然としていました。入社試験のペーパー試験の上位は女性が多いそうですが、実際にはまだ男性の職場の感じを受けました。コンピュータ導入により以前に比較して原稿づくりから編集・印刷・発送まで作業は進化したそうです。見学中、インキの匂いもあまりしませんでした。若い人を中心に新聞を購読しない人も増えましたが、情報の正確さ・幅広い記事等紙媒体のメリットは捨てがたいものがあると再認識しました。

お土産に点字毎日冊子・携帯用のストラップ・Mainichi Weekly等をいただきました。



(毎日新聞社にて)

その後、お向かいのリッツ・カールトンでお茶とケーキを楽しみましたが、ちょっとした面白いハプニングもありました。



(リッツ・カールトンにて)

参加者：山内龍男・山田輝子・塙幸子・林園子・林弘子・井上佳久・加藤進・藤野紀子・石井久行

(敬称略・順不同)

## ■2017年JANZ新年会に参加

1月24日、在京のニュージーランド大使館でJANZ（日豪・ニュージーランド協会主催）の新年会が行われ当協会から西川・林姉妹・石井の4名が出席しました。NZ大使は昨年6月にシンクレア氏からペイトン氏に交代されました。ペイトン大使は以前大阪の総領事をされておられ関西について造詣も深い方です。



(ペイトン大使)

今年は、「さくらこまち和楽団」が琴と尺八の演奏、抽選会などで約200名の出席者で盛況でした。来年はオーストラリア大使館で開催の予定です。



(さくらこまち和楽団)

## ■初めて訪れるニュージーランドへの感動の旅

NZへの関心の高まりは、当協会創始者である川瀬博士との、20余年前に遡る、とある会合での出会いに始まります。こてこての大阪弁とその豪放磊落にして人を魅了する特異なお人柄に私はその場で陥落、感服してしまいました。いざなわれるよ

うにNZへの長年の夢が、今回ようやく現実のものとなり宿望を果たすことができました。

紙面の関係上、今回の紀行文は、「タウマルヌイ高校表敬訪問」とその道中での素晴らしい体験が中心となっています。

### タウマルヌイ高校表敬訪問記

入国7日目の早朝、宿泊地 New Plymouth より Taumarunui に向け出発した(距離 196 km)。昨日の国道3号線を Stratford まで引返し左折、43号線に入る。別名「[Forgotten World Highway](#)」(延長 155 km) という。19世紀後半の入植、開拓時代を懐旧させるようななんとも哀愁に満ちたネーミングが旅愁をかき立てる。NZ 最古の歴史街道(さしずめ「熊野古道」のたぐい)か。果てしなく続く山道は曲がりくねり道幅は狭い。遠望すれば優美な山々。行き交う車や人影は見られない。まさに「陸の孤島」。近づく者には時に容赦ない牙をむきそうだ。道は所々未舗装(unsealed)、路肩は崩れ片側通行状態、そして左手方向には崩れ落ちた山肌。片時も目を離せない。背筋が凍り、汗ばむ手に緊張感が走る。運転は細心の注意を要し、時に難渋を極める。とりわけ、車一台がかろうじて通れる往事のままの姿を今に残すトンネル(1936年竣工、全長 180 m: Moki Tunnel) は圧巻だった。



(トンネル入り口)

今も現役にて健在である。その入口上方には茶目っ気たっぷりの「Hobbit's Hole」の標識が見える。先人のユーモアのセンスに思わず頬が緩む。崩れ落ちてこないかとハラハラしながらもその中を無事通過。良い思い出となった。感涙！

道すがら、放置され朽ち果てた年代ものの車両も目に付く。廃線となった軌を一にする単線の線路

は、寂しさ故の人恋しさが半ば駄々っ子のように道路にすり寄り、まわりつきながら車に併走、時には踏切となって道路と交わり、幾度となく見え隠れした後、遠来の客人にそっと別れを告げるかの如くいつしか静寂の彼方にその姿を消す。なんとも愛おしく心をおしづかみされそう。まさに映画の一シーンを見ている、えも言われぬ、筆紙に尽し難い情景が途切れることなく展開されていく。心地よい陶酔感に浸るも、つかの間、突如、下り坂の向こうに小さな集落が迫る！。時間が凍りついているかのような深閑とした妖気漂う異次元の世界だ。眼前に迫るコロニアル様式の建物には「Whangamomona Hotel」と抑制的に書かれた看板が見える。資料には、入植当時（1895年：明治28年）は辺境の地であったようで、かなり賑わっていたとある。しかし、期待に反し人影はまったくなく、もはや往事をしのぶ殷賑の面影はない。



(Whangamomona Hotel)

1989年 Whangamomona 共和国を宣言、独自の大統領選を行い、パスポートも発行していると言うから興味深い。

ペンキの剥げた白い木造の、堅く閉ざした、かつての郵便局、その隣には西部劇に出てきそうな雑貨店、目を転じれば道を隔てたその前に古色蒼然とした修理工場、その横には歴史を感じさせる木造の教会、これらすべてがレトロの世界をみごとに演出。まさに静寂の中に眠る「忘れ去られた世界 (Forgotten World)」の映画セットを見ているようで旅人を蠱惑（こわく）させ、人界からの逃避心をくすぐる。「盛者必衰の理」とはこのことか？一度は輝きを放った存在がくすむ姿は、何であれもの悲しい。消えゆく空間への愛惜の念が募る。旅の疲れか軽い目眩とともに突然、全身を包み込む

かのような睡魔が襲う。



(レトロな街並み)

そして、目的地 Taumarunui 高校表敬訪問へ

Taumarunui は、ここからさらに約 100 km 山の奥にある。羊や牛、馬の放牧地帯が果てしなく続く山中をひたすら走行。移りゆく風景に見入りながら、過酷な環境の中で原生林を緑豊かな牧草地へと見事に変貌させた当時のイギリスからの入植者による崇高な造形美にいたく感動！そして、ややあって、道路を占拠し移動する羊の群れと牛の群れに二度遭遇。完全に進路を阻まれ立ち往生することそれぞれ 20~30 分、計 1 時間近くの想定外の時間ロスとなった。車の燃料計を気にしながら、12 時少し過ぎ、からくも Taumarunui 高校に到着した（標高 120 m、降雪は 20 年に一度程度とか）。試験期間中なのか校内には「EXAMS QUIET PLEASE」や「QUIET PLEASE EXAMS IN PROGRESS」の標識が目立つ。Forlong 先生との再会を期し胸弾ませながら足早に受付室へ。幸運にも再会することができ、突然の訪問にもかかわらず心から歓待していただき、そのご厚意に心から感謝！



(左：筆者、右：Forlong 先生)

さっそく来校者名簿に記帳後、校内見学。校長先生(Principal)や今年来日予定の引率の先生は共にご

不在であったためお会いできませんでしたが、乗馬を教えられているアニタ・ダンカン先生を職員室前にてご紹介いただきました。以前、事務局長をされていた桑原さんがお世話になったようです。その後、生徒のみなさんが日本語の授業を受けられている教室へ。



(教室の展示物)

教室の後ろには、暖簾 (のれん)、「となりのトトロ」のパズル絵、日本の国旗、富士山をバックに疾走する新幹線の写真、墨絵の掛け軸、満開の桜や城の写真などが展示されており、またその横の壁には、日本地図、カレンダー、「オキナワ」と書かれたTシャツ、さらに黒板の横には「ひらがな、カタカナ」の書き方を示す表も貼られていて、Forlong先生の生徒への教育に対する熱く一途な想いが伝わってくるようでした。また、遙か遠く離れたNZの皆さんがこのように日本に大きな関心を持っていただいていることを実感し唯々ありがたく、嬉しく思いました。教室見学後、サッカー場とラグビー場にも案内していただき、その広大さとゴルフコースのような見事に手入れされ新緑色の光沢をたたえる芝生には思わずワオーと感に堪えたような声をだす始末。これら以外に室内プールも完備されているとか。空気のきれいな静かで素晴らしい環境の中で勉学、スポーツともに堪能できる生徒の皆さんが羨ましく思えました。また、遠方からの在校生には寮も用意されており、給食ではなく、すべて自分達で自炊されているとお聞きしました。週末は各自自宅に帰られるようです。こういった幼いころからの自立心を育む教育は、ややもすれば過保護になりがちな日本の子供達も見習うべきかも知れません。その後、図書館に案内され、4月来日予定の生徒

のみなさんとお会いすることができました。簡単な挨拶をさせていただき、「みなさん、勉強頑張ってくださいね」の言葉でその場を失礼しました。現在の生徒数は、最盛期の900余名の1/3の300余名との説明があり、少子化の波はNZにも押し寄せているようです。

30分程度の校内見学後、Forlong先生が車のところまで見送ってくださり別れを告げました。校庭を出た去り際に、外側からも記念写真を撮り、改めて感謝の意を表して一礼しました。

今回、Taumarunui高校を訪問できたことは私にとっては大きな収穫でした。当日は、Forlong先生が午後から授業が入っていたようでしたが、突然の訪問にもかかわらず貴重なお昼休みの時間を私のために割きご案内いただいたことに紙面をお借りし改めてお礼申し上げます。Taumarunui高校のみなさんとの交流が末永く続くことを願うばかりです。

その後 Waitomo に立ち寄り、その夜は Hamilton 市内の、すぐ目の前に Waikato Stadium が見える「Park View Motor Lodge」(<http://parkviewmotorlodge.co.nz/>)に投宿。

Hamilton 到着の頃には陽はすでに傾き、暮れなずむあかね雲の夕景は実にロマンチックで感傷的でもあった。そんな情景に魅了されながら、今日一日の無事に感謝し、ビールで乾杯。アルコールが五臓六腑に適度に染み渡る至福のひとつとき、しばし旅愁に浸る。ふと目を外に転じれば夜のとぼりはすっかり落ち、空を見上げれば光輝く満天の星。星座のロマンに思いを馳せながら帰路に就く。どうやら明日も天気ようだ。ほてった頬をひんやりとなでる風までが心地よく感じる。

閑話休題。宿の主人は物静かで気風ある眉目秀麗の英国紳士。奇遇にも Taumarunui のご出身とかで、急に親近感が！お嬢様は3年間佐賀県で英語のアシスタントをされていたとのこと。ご夫妻とも来日歴あり一家揃っての大的日本ファン。特に奥様は、往年の名女優「キャンディス・バーゲン」を彷彿させるような「窈窕たる美人」。気高くもフレ

ンドリーな方。

一期一会は旅の醍醐味とか。ここでも素晴らしい出会いがありました。熱涙滂沱。日本人であることを嬉しく思います。

会員の皆様、Hamiltonに行かれました際は是非、立ち寄ってみてください。大歓迎間違いなしです！  
**Viva New Zealand!** 私の旅路はまだまだ続きます。

迷走しながらも無心に筆を運んだ所以か漫筆極まりない駄文となってしまいました。最後までお読みくださり心よりお礼申し上げます。

#### 走行データ

使用車種：Yaris（日本名ヴィッツ）、1.3L エンジン車

燃費：16.7 km/L（ガソリン消費量：112.478 リットル、ガソリン代：N\$203.63=16,500 円）

北島走行距離：1,880 km

NZの大地を自らの足で踏みしめた歩行距離：70 km 余り

旅程の概要：(2016年11月4日～13日)

1日目：関空発直行便にて21時過ぎ一路 Auckland へ。

2日目：翌朝10分早く Auckland 到着。市内見学。

Auckland 泊

3日目：レンタカーで Hamilton へ（125km）。さらに100 km 先の Tauranga へ。途中、映画「The Lord of The Rings と Hobbit trilogies」のロケ地見学。Tauranga 泊

4日目：Tauranga 市内観光。ワイカト大学（English Language School）、Harbour Bridge、マウント マウンガヌイ、そして Papamoa Beach Road へ。その後65 km 先の Rotorua へ。硫黄臭が漂う Rotorua 着。そしてさらに220 km 先の Napier へ。夕刻、市街地（アールデコ地区）散策。Napier 泊

5日目：早朝 Napier 北の Bluff Hill 展望台へ。ここからさらに320 km 先の Wellington へ。途中、Shannon の街中散策（1911年築の郵便局、入植開拓当時の復元駅舎）。Otaki を過ぎひたすら南下 Wellington 着。市内見学（博物館、駅舎、港湾、国会議事堂、カフェがひしめく Cuba Street など）。Wellington 泊

6日目：早朝 Wellington の National War Memorial Park と The Great War Exhibition 周辺を散策。「ラスト サムラ

イ」のロケ地 Taranaki 山（2518 m）を遠望し、一路 New Plymouth へ（350 km）。New Plymouth 到着。市内見学（海岸通り、プケクラ公園、美術館など）。

New Plymouth 泊

7日目：Whangamomona 経由 Taumarunui へ(196 km)。

Taumarunui 高校表敬訪問。Waitomo Caves 経由後、Hamilton へ。夕暮れどき市内散策。Hamilton 泊

8日目：早朝よりワイカト大学キャンパス内散策。

Hamilton 湖(Lake Rotoroa)へ。そしてコロマンデル半島の玄関口「Thames」(103 km)へ。Thames 到着。市内観光（歴史博物館、戦争記念碑など）。一路、Auckland 空港(103 km)へ。連日の長時間運転のためか腰痛と右腕に痛みが走る。明日は雨との予報あり大事を取り1日早くレンタカーを返却。Auckland 空港前のホテルに到着。Auckland 泊

9日目：国内線など空港周辺を雨と風のなか散策。

ホテルの自室にこもり英語の勉強(?)も兼ねテレビ視聴。トランプ次期大統領誕生の速報に接し、ことの意外さに一驚を喫す。終日、風が強く雨は降ったり止んだりの寒く憂鬱な天気。Auckland 泊

10日目：NZ97 便：10:25 発予定が遅れ 11:00 出発。関空 18:00 着。

帰国の翌日14日未明、M7.8の強い地震がクライストチャーチの北90kmにて発生とのニュースが飛び込む。

(加藤 進)

## ■大阪 SGG クラブのご紹介

私は、多分NZ協会の中で最年少の会員だと思いますが、一昨年の45周年記念行事など数回の例会に参加させていただいておりますので約半数の会員の皆さまの顔を拝見させていただきました。皆さまには、日頃よりニュージーランドとの交流を盛んに行われておられることと存じますが、小生が所属しております国際交流関係のボランティア団体を紹介致します。

私の所属しております大阪 SGG クラブは Osaka



Systematized Good-Will Guides Club という名の通り、善意つまりボランティアで外国人を案内している団体です。1982年の設立以来35年にわたって奉仕活動を続けています。大阪SGGクラブを含め日本政府観光局（JNTO）のもとで、89のSGGクラブが活動しています。

大阪SGGクラブでは、主に訪日外国人に同行して観光のサポートをさせて頂いております。他にも、大阪港に寄港したクルーズ船観光客への案内や、各種国際親善行事にたいする外国語による支援奉仕を行っています。



(右端はかま姿：筆者)

ウェブサイトの会長の挨拶を引用します：

『現在90人を超えている会員は、多彩な社会生活や職業の体験者です。全員がその体験などを活かして、世界各国からのお客様が観光、食事、買い物などを地元の人達と同じようにやっていただけのお手伝いをしています。またOSGGは、大阪、京都、奈良など日本の歴史と文化発祥の地である関西で活動するという恵まれた立場にあります。

この地域はユネスコの世界遺産が日本で最も多く集まっていますから、日本の歴史に関心がある人々にも十分に満足していただけます。

海外からのお客様は、OSGG会員の積極的なホスピタリティ活動を通じて、これら全てを見ていただき、体験していただき、楽しんでいただいています。

OSGG会員が住んでいる日本は、ユニークな文化や伝統に恵まれた魅力ある国です。そして会員の全員が、外国人の皆さんにも普通一般の日本人と同じ体験をしていただきたいと思います。ガイ

ド依頼状さえ送っていただければ、皆さんも、これまでOSGGのガイドを経験された人達と同じように、満足していただける筈です。

また、OSGG会員も皆さんをガイドできるのを楽しみ、感謝しています。皆さんとご一緒することで、世界中の多彩な文化についての知識を更に深められるからです。営利目的などプロの通訳案内業の方々の分野でない限り、喜んでお手伝いさせていただきます。』

皆さまもボランティアを始めて5年の間にはNZからの観光客もおられました。機会を見つけて是非NZを訪れたいと考えていますので、皆様のアドバイスをお願いします。

(参考)

大阪SGGクラブ <http://osakasgg.org>

善意通訳普及運動（JNTO）

[http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor\\_support/goodwill\\_guides.html](http://www.jnto.go.jp/jpn/projects/visitor_support/goodwill_guides.html)

(山下明)

## ■NZニュース・クリッピング

(11月～3月)

- ・失業率2008年以来最低レベルに（11.7）  
景気上昇に伴い失業率が5%を下回り、最低レベルになった。  
雇用の成長が大きいのはオークランドとオタゴ。しかしながら給与の上昇はあまり見られない。マオリ・太平洋諸島出身者の失業率は依然として高い。
- ・新首相にBill・English氏（54歳）（12.13）  
これまで副首相及び財務大臣としてKey元首相を支えており、これまでの路線を継続する。しかし、カソリック教徒であり、安楽死や中絶に反対しており、4年前の同棲結婚法案では否決票を入れていた。
- ・入国を拒否された人々（1.19）  
移民局の発表では年間4300人以上が

NZへの入国を拒否されているという。  
拒否された国籍ではマレーシアと香港が最も多く、台湾とブラジルも多い。  
年間、約600万人が入国している。

・洞窟のCO2増加と観光客増加への懸念  
(1.27)

土ボタルの名所、ワイトモ洞窟は昨年夏、二酸化炭素濃度が高い理由で入場禁止をやむを得ない状態が5回あった。最近では毎年発生している。年間、50万人が訪れている。

・賃貸料上昇率(2.17)

全国平均3.4%で、ロトルアは平均の2倍、住宅供給不足で賃貸広告を出せば複数から即座に連絡がくるそう。ホークスベイが12.5%で最高の上昇率。

・生活のためには最低時給20ドル必要(2.22)

非営利団体Living Wageによると国民が不自由なく生活して行くためには20.20ドル必要とのこと。

・カンタベリー地震のメモリアル公開(2.23)

11ミリオンドルをかけた追悼記念の壁が遊歩道沿いに建てられた。  
震災6年の記念事業としてスロベニアの建築家G.ブェヤック氏の作品が300点以上の候補から選ばれた。

・河川の汚染に3万9千ドルの罰金(2.24)

ハミルトンに基盤を置く化学洗浄企業がパエロア川の雨水システムに有毒物質を流しウナギや魚が多く死んだ。原因は老人介護ホームの屋根の修理の時に流れ出たそう。

・ニセコでNZ人スキーガイド、雪崩で死亡  
(2.27)

S. Keer氏(35歳)は、ガイド付きアド

ベンチャー・ツアーを運営していた。  
幅200m 長さ350mの雪崩に巻き込まれた。現場は立ち入り禁止地区で当日はスノーボードをしていた。

・アカロアのイルカと泳ぐが第1位に。(3.2)

Experience Oz + NZ社の調査で体験アクティビティのベストテンが発表された。

2. フィヨルド国立公園クルーズ
3. ロードオブザリングツアー
4. フォックス&フランツジョセフ氷河ツアー
5. フカ滝のジェットツアー
6. ロトルア地熱アトラクション
7. マルボロサウンドのクルーズ
8. ワイトモケープのブラックウォーターラフティング
9. マルボロのワインテースティング
10. フォルドサウンドのカヤックツアー

「NZ大好き」より

~~~~~

■入会のお誘いのお願い

会員増強は、協会運営の基盤です。NZに興味ある方をご紹介ください。現在会員は68名です

■ご寄稿のお願い

皆様からの原稿をお待ちしています。  
ニュージーランドに関する情報・旅行記等をお気軽にお書き下さい。  
締め切りは、5月末です。